

# ふくらく通信

発行者 菅野 香織

ご意見・ご感想は こちらへ

〒980-8529 仙台市青葉区一番町1-16-5  
河北仙鳳内「ふくらく通信」まで

または、ネット版へ

河北新報社運営のウェブサイト「ふらっと」にて、ブログの「ふくらく通信・ネット版」を開設しています。「ふらっと」は会員登録料無料。会員はコメントの書き込み、メールができます。参加してみてくださいね。

宮城の東北と若手泉南とは古くからつながりがあり、また、古くから集落があり、同族が点在して交流して、たかもしれないなあと、するが昔をふと思うのであります。江戸期には二関や水沢で伊達家の親戚筋が城主となり、北上まで、仙台領となつて、東の沿岸部も、宮城県北の気仙沼から、さらには北の若手泉南に入った陸前高田や大船渡に釜石の辺りまで仙台

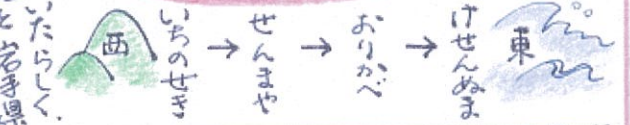


## 気仙沼街道を楽しむ

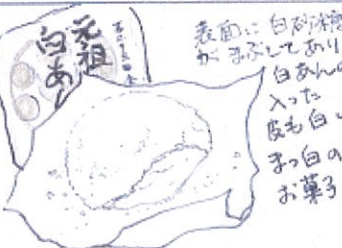


**名馬の伝説**  
せんま 干殿は、かつて馬牧場があったらしい。義経の駿馬が育った所だといわれている。ひびき越えをした名馬だ。

領となつて、たたらしく、宮城県北と若手泉南は同じ国でした。そして、一関と気仙沼を結ぶ「気仙沼街道」もあり、古くから人や物の交流があったわけですね。街道の町に、史跡や伝説もいろいろあります。



「干葉本店」さんは、明治4年に倉作。室根山の残雪の美しさを表したといひ。砂糖がおおしあてびっくらに。表面と中身が調和して、しこくない甘さ。絶妙の食感と味の工夫だ。シャリシャリした表面と、白あんが滑らかな口で溶ける様は、ふるふると雪を思わせる。「白あんぽん」は、干葉さんの他に、「福島屋本店」さんでも作っている。



さて、折壁の町を通ると、「元祖白あんぽん」の文字が目につきます。木造の趣きある店の名もまた、「干葉本店」でした。

江戸時代や、それ以前からの古城や館もたくさんあった所で、今は畑や民家に埋れてしまふ。中でも、折壁辺りは街道沿いに多くあり、そのほとんどが、葛西家臣や一族に当る干葉氏の館だったそうです。その辺りに干葉氏の方が多いのは、干葉氏の繁栄の地だからでしょう。

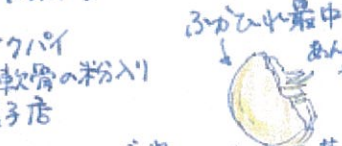
フカヒラーメン・フカバーガー・フカヒゼリーなどなど... サメがいろいろいっしょ。



「しばた菓子店」さんの地酒「玉の春」

また、干殿では、「玉の春」という文字が目につきます。干殿は、明治と大正時代に酒造りがなされ、当時、横屋純本家という大東の富豪が分店を干殿で創業したのだそうです。屋号を「玉の春」とし、酒蔵や酒が、今もこの地にあります。さらに、その酒を使った菓子もありました。

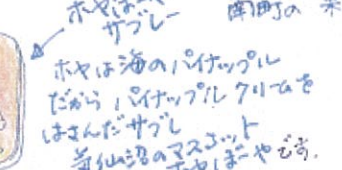
お魚市場のサメナゲット 縁にいた旨さ



横田酒造「玉の春」(現岩手銘醸(株))の酒を「ふるり」しおこませたケーキ

横田酒造の屋号であり「玉の春」は新年に若水も汲む祝い事「新玉の春」を「ふるり」しおこませたケーキ。後味が、きりりと香りと旨味が豊かな酒を、きめ細く絶妙の甘さのケーキが、活かしている。

ふかひん最中 あんはかきが入っている



古くからの街道で、味わえたものは、自然と共にまろめく、土地の良さを生かした。

そして、気仙沼は、フカヒの産地です。町には、サメ料理や菓子がいっぱいあります。「シュークリーム」や「シュー」の生菓子を、知ることもできます。意外な生菓子が、くりし、感じもいろいろんな種類が、いるのも、かかて面白いです。